

4 教育活動での配慮（指導の工夫）

☆指導内容の精選等☆

入院や通院、治療等のために学習時間の制約を受けることや休憩・治療などによる学習の中断は、「やむを得ない」ながら、それにより学習内容の理解や定着が妨げられやすいことも、病弱児の指導場面においては起こり得る状況です。さらには、病状による運動制限や投薬の副作用により意欲が減退するといった、学習活動を行っていく上での本人自身の課題もあります。

特に、病院内に設置される院内学級については、児童生徒個々の入院期間（在籍期間）が異なります。同じ学年であっても学習進度に差があったり使用する教科書が異なったりするなど、個々により状況も違うため、多岐にわたる指導の工夫が求められます。また、指導内容の連続性に配慮した学習活動も必要です。

ポイント

各教科の指導計画の作成に当たっては、児童生徒の実態を十分に考慮し、教科の特性を踏まえて指導内容を精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置いて指導します。この際には、教科として習得すべき事項とともに、一人一人の実態に基づき個々の児童生徒にとって必要な事項についても十分考慮して精選し、指導内容の連続性に配慮した工夫を行ったり各教科等相互の関連を図ったりして、効果的な学習ができるようにすることも大事になります。教科それぞれの目標や指導内容の関連性を検討し、指導内容の不必要な重複を避けたり、重要な指導内容が欠落したりしないよう配慮しながら、指導時数、時間配分、指導方法などについても相互の関連を考慮した上で指導計画を作成することが必要です。

必要に応じて、教科間の関連性を図るだけでなく、道徳科、外国語活動、自立活動、総合的な学習の時間及び特別活動等との関連も考慮したいものです。

☆自立活動の時間における指導との関連☆

健康状態の改善に関する内容の指導に際しては、特に自立活動における指導との密接な関連を保つようにして、学習の効果を高めるようにします。

ポイント

各教科の中でも、特に体育（保健体育）科、家庭科などにおける病気の予防や健康な生活、身体の仕組み、身体に必要な栄養素や食品など直接身体活動に関わる内容については、自立活動の「病気の状態の理解や生活管理に関すること」、「健康状態の維持・改善に関すること」及び「情緒の安定に関すること」などの事項との関連を図り、自立活動の時間における指導と相補い合いながら学習効果が一層高められるようにすることが大切です。

☆体験的な活動における指導方法の工夫☆

病気の事情から、体育（保健体育）など実技を伴う教科への参加、家庭科の実習、社会や理科の観察・調査、見学など、あるいは校外学習や運動会といった体験を伴う活動に際して制限のある場合が多くあります。

ポイント

病気の状態や学習環境に応じて、指導方法を工夫することが必要です。Web サイトでの間接体験や疑似体験、VR（Virtual Reality）の技術を使った機器を活用した仮想体験等を取り入れるなど、限られた環境の中でより効果的な学習活動が展開できるようにすることも有効です。



☆補助用具や補助的手段、コンピューター等の活用☆

病弱児の一般的な傾向として、授業時数の制約、身体活動の制限、学習の遅れ・学習空白、経験の偏りなどの状態が見られます。

ポイント

実態に応じて教材・教具や入力支援機器などの補助用具を工夫し、スイッチや視線入力装置、音声出力会話補助装置などの入出力支援機器の活用をすることで、自分の力でできる活動の幅を広げることも可能です。

また、病気のために教室に登校できない場合には、病室内で指導する教師と教室で指導する教師が連携を取りながら、テレビ会議システムにより病室内でも授業を受けることができるようにするなどして、学習できる機会を確保するために情報機器を活用することも大切です。

その際、タブレット端末等の情報機器を使って教室の具体物をインターネットで遠隔操作できる場面や双方向で意見交換する場面を設けるなどにより、療養中でも、主体的・対話的な活動が可能となることもあります。



【参考資料】

[子供の学び応援サイト～学習支援コンテンツポータルサイト～](#)

（※ クリックするとリンク先に移動します。）



このサイトは、学校の教師や子どもたちが自由に利用できる教材や情報を、文部科学省がまとめたものです。公式 LINE もあります。

☆負担過重とならない学習活動の設定☆

学習の遅れを取り戻したいという強い思いから、無理をしてしまう子どもがいます。特に卒業や進学を目前に控えた時期に、不安や焦りから無理を重ねて病状を悪化させてしまうことが少なからずあることから、十分に留意した学習環境の設定を心がけなければなりません。

ただし、可能な活動はできるだけ実施できるように学校生活管理指導表などを利用して適切に対応し、できたことで少しずつ自信をつけていけるよう、心理的に配慮することも大事にしたいものです。

